

## 幸せになるための教育に関する取組について

評価は、学校・園が「A:十分達成した、B:ほぼ達成した、C:あまり達成できなかった、D:全く達成できなかった」の4段階に評価し、それを点数化(A=4点、B=3点、C=2点、D=1点)して、市全体の平均(下段の点)をとった。そして、3.5以上をA、3以上をB、2.5以上をC、2.5未満をDと評価した。

(0)「幸せになるための教育」を考えて実現していく。

小学校・中学校

	小学校	中学校
①「幸せになるための教育」を考えて実現していく。	B	B
	3.1	3.0

①学校教育目標に「幸せ」を位置づけ、教職員の意識化を図った。「半田ハッピーウィーク」での公開授業では、幸せについて考える場面を取り入れた授業を通して、児童生徒、保護者ともに幸せを実感できるよう、各校が工夫して実践することができた。日常的な取組や保護者・地域との協働など、今後のさらなる充実の必要がある。

幸せになるための教育の取組についての評価

児童生徒：幸せについて考えることができた

教職員①：子どもたちの幸せを意識した教育活動に取り組むことができた

教職員②：子どもに向き合う時間や心の余裕を生み出すことができた

学校：「幸せになるための教育」を考えて実現していく

(自己評価) A：十分達成した・B：ほぼ達成した・

C：あまり達成できなかった・D：全く達成できなかった

	児童生徒	教職員①	教職員②	学校（自己評価）		
小学校	84.54%	89.97%	61.11%	B	3.1	・各校の自己評価を点数化する。（A→4点、B→3点、C→2点、D→1点） ・点数化したのち、平均する。 ・平均点をA B C Dに変換する。 （3.5以上→A、3以上→B、2.5以上→C、2.5未満→D）
中学校	77.07%	83.98%	57.46%	B	3.0	
全体	82.41%	87.88%	59.85%			

・主な取組、○成果、●課題

小学校	<p>・学校教育目標や行事・諸活動のねらいに「幸せ」を位置づけ、児童・教職員が「幸せ」を感じたり考えたりできるようにした。</p> <p>・「半田ハッピーウィーク」中に学校公開日を設けて、「幸せ」をテーマにした授業や行事を行い保護者に参観してもらった。</p> <p>・学校だよりや各種文書の中に「幸せ」という言葉を入れたり、道徳等で学んだことを教室掲示したり、自分のよさを自覚して認め合ったりするなど、日常的に「幸せ」について考えられるよう工夫した。</p> <p>○児童・教職員ともに、「幸せとは?」「幸せになるために必要なことは?」についてじっくり考えることができた。また、普段あまり意識していなかった「幸せ」について、いろいろな角度から考えることができた。</p> <p>○児童からは、「自分で・・・する」という主体性が芽生え始めているように感じる。</p> <p>○自分のよさを自覚できるようになったり他者から評価されたりすることで、自己効力感や自己有用感を高めることができた。</p> <p>○公開日に授業参観等を行ったことで、保護者の意識にも訴えることができた。</p> <p>●公開日にはすべての担任が「幸せ」をテーマにした授業を行ったが、日常的に「幸せ」について考えさせている担任は少なかった。教育活動全体を通して「幸せ」について考える機会をもてるよう教育活動を見直すなど、工夫が必要だと感じた。</p> <p>●公開日を実施するにあたり、「親子で考える」「親子でともに活動する」という考えになってしまい、準備や当日の活動に対する負担感を感じている教職員も少なくない。</p>
中学校	<p>・学校教育目標や行事・諸活動のねらいに「幸せ」を位置づけ、生徒・教職員が「幸せ」を感じたり考えたりできるようにした。</p> <p>・「半田ハッピーウィーク」中に学校公開日を設けて、「幸せ」をテーマにした授業や行事を行い保護者に参観してもらったりともに考えたりした。その中で、生徒が自己肯定感を高め、「幸せ」を探求し、相互理解できる人材になることを目的として授業を行った。</p> <p>・生徒にとっての「幸せ」の一つを楽しい授業やわかりやすい授業と捉え、追求した。</p> <p>○「幸せ」というキーワードが教員や生徒に浸透し、日常生活の中にある「幸せ」を実感したり、「自分にとっての幸せとは?」について考えたりすることができた。</p> <p>●教員の授業改革の意識はあるものの、まだ改善の余地はがある。今後も、生徒が学校に来て授業を受けたい、と思うような授業を追求していきたい。</p> <p>●資料があまり残されておらず、「幸せになるための教育」に対してどのように取り組んでいけばよいか伝わりにくい。実践内容を自由に公開できる雰囲気を作っていく必要がある。</p>

## 幸せになるための教育 まとめ

### 1 具体的な方策

- ① 教育目標との関わり、教育目標への位置づけ
- ② 強化週間 「半田ハッピーウィーク」
- ③ 実践事例の蓄積
- ④ 小学校教科担任制の推進
- ⑤ 中学校部活動の地域移行
- ⑥ 研修の充実
- ⑦ 教育環境・システムの整備
- ⑧ 幸せになるための教育の取組についての評価
- ⑩ その他

### 2 考察

- ・ 具体的な方策①②の取組により、82.41%の児童生徒が「幸せについて考えることができた」と回答した。また、87.88%の教職員が「子どもの幸せを意識した教育活動に取組ことができた」と回答した。教育目標との関わりや教育目標への位置づけについて教職員間で協議し、見える化することで、教職員の意識が高まったと考える。また、強化週間の名称募集や学校公開を行ったことで、教職員と児童生徒の意識も高まったと考える。
- ・ 具体的な方策③については、240事例の板書の写真データを蓄積することができた（376学級に対して、63.82%）。他の学級でどのような実践が行われているのか参考になり、実践への意欲化につながっていると考える。今後も継続するとともに、蓄積数を増やしていくことが必要である。
- ・ 具体的な方策④⑤⑥⑦により、教職員が子どもに向き合う時間や心の余裕を生み出すことをねらった。59.85%の教職員が肯定的な回答をしているが、十分に成果が出ているとは言い難い。小学校教科担任制（具体的な方策④）については、県の加配教員の配置に加えて市の非常勤講師を活用して、すべての小学校で高学年において2教科の専科教員による指導が行われている。中学校部活動の地域移行（具体的な方策⑤）については、令和6年9月からの土・日曜日の地域移行に向けて準備が進んでいる。教育環境・システムの整備（具体的な方策⑦）についても、できるところから実現に向けて取り組んでいる。子どもに向き合う時間や心の余裕を生み出すことは、様々な要因が複雑に絡んでおり、本方策の有効性を検証することは難しい。今後も、これらの方策を止めることなく、取り組んでいくことが必要である。
- ・ 具体的な方策⑥では、8月に行った工藤雄一氏の講演会后、教務主任を中心とした研修視察や、2度目の工藤雄一氏による講演会の実施につながった。力量向上への意欲が高まったと考える。

【「幸せになるための教育を実現する会議」からの市長への提言】

- ① 半田市において「幸せになるための教育」を考えて実現していくこと
- ② 「幸せになるための教育」を実現していくやり方は、各学校、各教員が主体的に自由に考え、進めていくこと
- ③ 教育現場で「幸せになるための教育」を実施しやすい環境整備に努めること

【具体的な方策】

1 教育目標との関わり、教育目標への位置づけ（別紙） ①②

「教育の目的は子どもの幸せ」

「学校は子どもが幸せになるためにある」という想いのもと、

よりよく生きる

すべての教育活動（授業、行事、・・・）で**幸せ・ウェルビーイング**を目指して

ア ・「私・みんなの幸せとは？」・・・キャリアD（夢を追い求める力）

・「私・みんなが幸せになるには？」・・・キャリアA（夢に向かって行動する力）

を、教職員が意識し、児童生徒に問いかける。

イ ・学んだことを生かせそうな場面は？・・・キャリアD（夢を追い求める力）

・学んだことを生かした（使った）経験は？・・・キャリアB（自分のよさを信じる力）

・学んだことと私たちの生活（今の社会）との関連は？・・・キャリアC

（人間関係を形成する力）

を、学習（単元、授業、行事・・・）計画に位置付ける。

2 強化週間「半田ハッピーウィーク」 ①②

○市制記念日（10/1）から1週間 R6.10.1（火）～10.7（月）

※強化週間の名称を児童生徒から公募（公募→数点に絞る→児童生徒の投票により決定）

※強化週間中に学校公開日を設定（学校事情により、多少の前後は可）

3 実践事例の蓄積 ①②③

○板書の写真データを蓄積（一人1実践以上）

例) Google ドライブ（1年ごとに書き出し、センターサーバーへ）

○指導案の蓄積（任意）

例) センターサーバー

○行事等の資料（職員会議の提案、資料等）の蓄積（任意）

例) センターサーバー

○授業内容の例

道徳：一人一人が考える幸せとは？（多様性に気付く、認める、尊重する）

幸せってどんなとき？どんな気持ち？（幸せについての理解）

幸せになるには？（自ら考え、行動する 実践力）

学活：みんなが幸せになる学級づくり（協力・共生を目指した集団づくり

よりよい人間関係の形成）

○授業方法の例

学級担任以外の教員による授業（多様性に気付く、多くの大人と幸せについて考える）

保護者参加型の授業（親子の対話）

4 小学校教科担任制の推進 ①③

- ・授業の交換
- ・市費による専科教員の配置 例) 高学年の算数・理科・音楽・体育・英語のうち2教科

5 中学校部活動の地域移行 ①③

- ・まずは、土日は地域へ 中学校部活動の中止(廃止) 土日の活動は半田祭まで
- ・ゆくゆくは、平日の勤務時間外も地域へ

6 研修の充実 ①③

○夏季休業中の研修の充実

R5.8 ~~講演会(講師の候補) 王藤勇一 氏 (横浜創英中学・高等学校校長  
元千代田区立麴町中学校校長)~~

R6.8 研修会 テーマごとに、その道の達人(授業名人)を講師に講座を開設  
(// 講演会 講師: ※検討中)

R7.8 研究発表会 各校の教育研究(現職教育)を発表

7 教育環境・システムの整備 ①③

- ・特別教室へのエアコン設置
- ・学校徴収金管理システムの導入
- ・学校地域協働支援員の配置
- ・校務支援システムのバージョンアップ

8 幸せになるための教育の取組についての評価 ①

○児童生徒：学校生活アンケートの項目に追加

設問例) 幸せについて考えることができた

【そう思う・だいたいそう思う・あまり思わない・まったく思わない】

現在の設問) 1 学校が楽しい / 2 授業が分かる /

3 友達と仲良く生活できた / 4 あいさつがしっかりできた /

5 地域の行事や活動に参加することができた

【そう思う・だいたいそう思う・あまり思わない・まったく思わない】

○教職員：学校評価の自己評価項目に追加

設問例) 子どもたちの幸せを意識した教育活動に取り組むことができた

【できた・だいたいできた・あまりできなかった・できなかった】

子どもに向き合う時間や心の余裕を生み出すことができたか

【できた・だいたいできた・あまりできなかった・できなかった】

○学校：半田市の教育目標に対する取組と評価の報告の項目に追加

例) 「幸せになるための教育」を考えて実現していく

主な取組、○成果、●課題

自己評価【A：十分達成した・B：ほぼ達成した・

C：あまり達成できなかった・D：全く達成できなかった】

○その他（※各校で判断）：教育相談事前アンケート

設問例)・最近、幸せと感じることはありましたか？

【よくある・時々ある・あまりない・まったくない】

・どんなときに幸せと感じましたか？（あてはまるものを複数選択可）

家族といるとき

友達と遊んでいるとき

何かができたりわかったりしたとき

ほめられたとき

相手が喜んでくれたとき

誰かのために何かをしたとき

好きなことをしているとき

好きなものを買ってもらったり食べたりしたとき

その他（                      ）

9 その他 ①

○実践内容の情宣 ※積極的にお願いします。

- ・授業公開
- ・学校ホームページの活用
- ・市長メッセージの発信

○教職員同士の対話 ※積極的にお願いします。

「私の幸せとは？」

- ・現職教育の校内研修前のアイスブレイク
- ・ランチミーティング                      など、ちょっとした時間で、気軽に。

【半田市教育委員会】令和5年度重点的な事業の実績報告等について

No.	項目	概要	R5実績	課題等
1	学校生活支援事業	集団生活になじめない児童・生徒への支援等を行う学校生活支援員や、特別支援学級の運営を補助する補助員等を各校に配置。	学校・学級規模や支援を要する児童生徒の状況に応じて必要人員を配置。	中学校の特別支援学級対象者が増加傾向。R6より新たに中学校に補助員を配置(各校1名)。今後も引き続き必要人員の配置を進める。
2	いじめや不登校等対策事業	教育支援センター(旧:適応指導教室)の運営、メンタルフレンド派遣、SC(スクールカウンセラー)派遣、心の教室相談員活用、SSW(スクールソーシャルワーカー)派遣等を通じ、対象となる児童生徒への支援を実施。	いじめの発生件数は横ばい、不登校件数は増加傾向。不登校対策として、事後的支援に加えて未然予防支援(不登校前の早期アプローチ)を実施。	不登校等の要支援件数が増加、課題も複雑・複合化。R6よりSC及びSSWを増員、半田中に校内教育支援センター(県委託)を設置。不登校について、近年、国は学校等復帰に加え、学びの保障を提唱。
3	日本語初期指導事業	日本語による授業参加の困難な児童生徒を対象に、初歩的な日本語教育を拠点校で実施。	在籍校から拠点校までの保護者送迎が難しい場合は、タクシー送迎を実施。	外国籍の児童生徒数が増加傾向。
4	小学校水泳授業指導補助委託事業	学校プールの老朽化対策や質の高い水泳指導等を目的に小学校の水泳授業を温水プール事業者へ委託。	R5より花園小で開始。	花園小に加え、R6より亀崎小・成岩小で開始。将来的に順次拡大を目指す。
5	小中学校情報機器整備事業/ICT教育推進事業	個別最適な学び等の実現を目指し、一人一台タブレット等の情報機器を整備。また、今後のICT教育について検討。	タブレット等を活用した教育活動を展開。また、有識者による教育DX研修会等を開催。	R8にタブレットが更新期となるため、後継機の選定を進めるとともに、今後のICT教育の方向性等を定める必要がある。
6	施設整備事業	老朽化した学校施設の改築等を進めるとともに、予防保全の観点から校舎等の屋根防水・外壁改修等を実施。また、未だエアコンが設置されていない特別教室に順次エアコン設置。	乙川中の外構工事、亀崎小改築の実施設計・仮校舎建設等を実施。小学校の予防保全工事に着手。特別教室のエアコン設置も計画的に実施。	亀崎小、乙東小の校舎改築等を計画的に進める。また、R6より中学校の予防保全工事に着手。特別教室に加え、体育館へのエアコン設置を検討。

# 第2次半田市教育大綱

## 〈はじめに〉

令和3年3月に策定しました第2次半田市教育大綱は、半田市総合計画との整合性を図りながら、第1次教育大綱の理念を継承するとともに、将来を担う子どもたちが、生きる力や必要とされている能力、そして、それらを身につけるために、何をどのように学ぶか、といった新学習指導要領に示されている教育理念の実現を目指し、地域住民の皆様とともに各事業を実施して参りました。

このたび、令和7年度の間見直しに先立ち、目的に「幸せ」になることを掲げ、教育に関わる方すべてが共通認識をもって、より一層の教育の振興を図って参ります。

市政運営のすべては、市民が幸せになることにつながっていると私は考えています。幸せは、人それぞれで違います。他者から押し付けるものではなく、自ら考え、答えを出し、行動していく必要があります。「幸せ」について考えることを特に重要な視点に位置づけ、人づくりの土台となる教育において、必要な環境を整える取組を進めて参ります。

だれもが「幸せ」を願い、将来への夢と希望をもち、「ふるさと半田」を大切にす  
る心を育ていけるようにすることを半田市の教育行政の使命として進め、一人  
ひとりが考えた幸せが現在から未来へ、そして社会全体の幸せにつながっていく  
ことを期待しています。

令和6年3月

半田市長 久世孝宏

## 〈教育大綱の期間〉

対象期間は、令和3年度から令和12年度までの10年間とします。令和7年度に中間見直しを実施します。

# I. 学校教育

## <基本理念>

**「ふるさと半田を愛する心を育み、**

### **自分らしさと夢を育む学校教育の推進」**

子どもたちが幸せを見つけられるように、キャリア教育を通じて、元気いっぱい、笑顔いっぱい、優しさいっぱいの子どもを育てます。

○元気いっぱいの子

よく学び、よく遊び、心身ともに健康的な生活を送ることで育ちます。

元気な子は、周囲を明るくします。

○笑顔いっぱいの子

親しみに満ちた雰囲気の中で、「わかった!」「できた!」という達成感を味わうことで育ちます。笑顔あふれる子は、周囲を和やかにします。

○優しさいっぱいの子

ぬくもりのあるふれあいの中で育ちます。人に優しくできる子は、周囲を温かくします。

## <基本方針>

「幸せ」を判断基準として、子どもたちが自分自身で物事を見極め、納得した答えを導き出すとともに、多様性を尊重し、健康で明るく豊かな社会を作り出していくために自ら行動できる能力を育てます。

### **1. ふるさと半田のよさを知り、愛し、誇れる人を育成します。**

- (1) コミュニティ・スクール制度を生かし、学校・家庭・地域間が相互連携を図り、地域とともにある学校づくり、学校とともにある地域社会づくりを推進します。
- (2) 地域の伝統や文化、産業を学び、ふるさとを愛する心を育む地域学習を進めます。
- (3) ふるさとを誇りに思い、地域社会に貢献できる人を育む教育（国際理解・人権・平和・防災等）を進めます。

### **2. かけがえのない「いのち」を大切にし、人の役に立とうとする人を育成します。**

- (1) 自他を尊び、「いのち」を大切にしようとする心を育てる教育を進めます。

- (2) 人との関わりを大切にし、人の役に立とうとする心を育てる体験活動を推進するとともに、豊かな心を育む道德教育の充実に取り組みます。
- (3) 安心して学校生活を送れる心地よい居場所づくりに努めるとともに、教育相談体制を充実します。

### **3. 確かな学力を身につけ、夢や目標に向かって自らを高めようとする人を育成します。**

- (1) 自分らしくよりよく生きるために必要な力を育むキャリア教育を進めます。
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の学習を進めるとともに、誰ひとり取り残さない教育の実現に向け、きめ細やかな指導に努めます。
- (3) 幼稚園・保育園や高等学校、特別支援学校、専門機関との連携を通して、一人一人の特性やニーズに応じた適切な支援・指導を進める特別支援教育を充実します。
- (4) ICTの活用を推進するとともに、情報活用能力を育成します。

### **4. 望ましい生活習慣を身につけ、健康と体力の向上を図ろうとする人を育成します。**

- (1) 基本的な生活習慣を身につけ、健全な成長をめざす健康教育を進めます。
- (2) 心を耕し、豊かにする読書や音楽文化に親しむ機会を設けます。
- (3) 望ましい食習慣を身につけることができるよう、食育を推進します。  
また、運動に親しむとともに体力の向上をめざします。

### **5. 教育環境の整備と充実を進めます。**

- (1) 幼稚園・保育園、小中学校、高等学校との連携を推進するとともに、学校・家庭・地域が一体となり、安心・安全の確保に取り組みます。
- (2) 老朽化施設の建替や大規模修繕を行い、学校内の安全性と快適性の向上を図ります。
- (3) 多様化する学習内容・学習形態の変化に対応できるように教職員の専門性や資質向上に取り組みます。

## Ⅱ. 生涯学習

### ＜基本理念＞

「だれもが楽しみ 学びでつながる  
自分づくり ひとづくり まちづくり」

いつでも、どこでも、だれでも、学びたいときに自分自身の目的に そって主体的に活動し、充実した人生を送ることができ、その成果が 地域社会で適切に評価される「生涯学習社会」をめざします。

そして、市民一人ひとりが生涯にわたる学習を通して得た成果を、社会の諸活動に活かすことで心の豊かさを育み、地域社会を発展させる原動力となるような学びの支援をします。

### ＜基本方針＞

#### 1. 「自分づくり」のための学びの支援をします。

- (1) 生涯にわたって学び続けたいと思う市民を支援します。
- (2) 年齢、性別、障がいの有無、国籍等に関わらず、すべての市民が学びたいことを学びたいときに学ぶ環境を提供します。
- (3) ライフスタイルに合わせた学習機会を提供します。

#### 2. 「ひとづくり」のための学びの支援をします。

- (1) 学びのつながりにより、新しい指導者の育成や後継者の育成を支援します。
- (2) 地域の活動に積極的に参加し、生活を豊かにしていくための学びの場を提供します。

#### 3. 「まちづくり」のための学びの支援をします。

- (1) 豊かな地域社会づくりに取り組むための学習活動を支援します。
- (2) 様々な形で市民が地域とつながることで、新たな市民が集うまちづくりの場を提供します。